

令和7年度



# 園だより 9月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるこころとあたま

「子どもは 子どもらしいのが いちばんよ。」

園長 原 麻弓

昨年 10 月に、児童文学作家の中川李枝子さんが亡くなられたという報道がありました。

中川李枝子さんは『ぐりとぐら』シリーズ絵本の著者として有名です。『となりのトトロ』のオープニングテーマ曲『さんぽ』の作詞も手掛けました。

そんな中川李枝子さんの著書『子どもはみんな問題児。』（新潮社）を読みました。

タイトルに惹かれて手に取った本でしたが、【はじめに】から心を揺さぶられ、一気に読み進めました。

はじめに

子どもへの最高の誉め言葉は、「子どもらしい子ね」ではないでしょうか。（中略）

「子どもらしい子」は全身エネルギーのかたまりで、（中略）大人からすれば「ちょっと待って!」と言いたくなるときでも「待った!」のひまはありません。（中略）

子どもらしい子どもは、ひとりひとり個性がはっきりしていて、自分丸出しで堂々と毎日を生きています。

それで大人から見ると、世間の予想をはみ出す問題児かもしれません。

だからこそ、かわいいのです。（後略）

「だからこそ、かわいいのです。」に込められた、中川李枝子さんの子どもを見る大きくて温かなまなざしを感じました。



子育てに悩む保護者だけでなく、保育者としての私たちにも励みになるようなトピックが、ご自身の保育士としての経験を通して書かれています。

少子化対策だと言って「駅の近くの保育園」「24 時間保育」など大人の都合で保育園がつくられていくのではないかと危惧し、「もっと子どもの側に立って、ほんとうに大事なものは何かを真剣に考えてほしい。」とも語っています（P140）。

先日、園内の職員研修で人権教育について学びを深めました。

職員からは「先入観にとらわれず、“目の前にいる”子どもの“今”に向き合いたい。」という言葉が出ました。

子どもらしさは時に大人を驚かせたり困らせたりイライラさせたりするものです。それでも先を生きてきた大人が、余裕をもって、大きな心で、あたたかな愛で子どものすべてを丸ごと受け止めていきたい。

最後に中川李枝子さんの言葉をお借りして、、、

焦らないで、だいじょうぶ。  
悩まないで、だいじょうぶ。  
子どもをよく見ていれば、だいじょうぶ。  
子どもは子どもらしいのがいちばんよ。

2 学期も下高井戸子供園の教育・保育にご理解・ご協力をお願いいたします。